

# 創傷ケアセンター

## 1. スタッフ構成

### 【創傷ケア委員会】

- 中川 浩志(総合診療センター長、創傷ケアセンター長、総合診療部主任部長、形成外科・顎顔面外科主任部長);創傷ケア委員会委員長
- 岡崎 秀規(皮膚科主任部長);創傷ケア委員会副委員長  
<医局>
- 松立 吉弘、石野 憲太郎、青野 哲哉  
<看護部>
- 越智 文子(副看護部長)、久保 美千代、和田 理枝、松本 和美(看護長)、河田 のぞみ、仙波 章子  
<薬剤部>
- 越智 啓介  
<リハビリテーション部>
- 玉井 誠也、武智 悠二  
<栄養部>
- 宮下 真結子  
<事務局>
- 山口 雅彦、中川 裕美

## 2. 認定資格取得

資格名	資格取得者
日本褥瘡学会認定褥瘡医師	中川浩志
日本熱傷学会熱傷専門医	中川浩志
日本創傷外科学会専門医	中川浩志
日本看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師	久保美千代、和田理枝
日本フットケア・足病医学会認定師	和田理枝

## 3. 運営方針

当院における創傷(動脈性疾患による創傷、糖尿病性創傷、静脈疾患による創傷、褥瘡、熱傷、凍傷、手術創など)の予防対策と早期治療の達成を図ります。この創傷対策指針に従い、創傷発生予防に対する体制を確立し、多職種協働のもと質の高い医療の提供を目指していきます。

## 4. 実績

### ■ 当院の褥瘡・MDRPU データ

	2016	2018	2020	2022	2023	参考※
褥瘡推定発生率	0.50%	0.30%	0.30%	0.30%	0.78%	1.15%
褥瘡有病率	1.70%	1.60%	1.40%	1.40%	1.88%	2.37%
MDRPU 推定発生率	0.90%	0.90%	0.40%	0.50%	0.70%	0.30%

※日本褥瘡学会算出:一般病院(2021年)

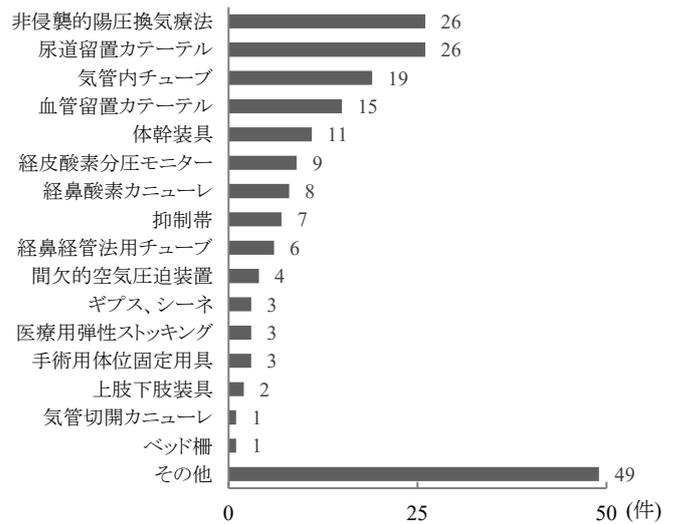
2023年1~12月の褥瘡リスク患者数は2,025名、そのうち褥瘡を保有していたのは406名でした。褥瘡発生患者は121名、医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)発生は159名でした。

当院の褥瘡発生部位としては、尾骨部54件、仙骨部29件、踵10件、臀部14件でした。d1、d2の『浅い褥瘡』発生が135件(83%)と大半を占め、早期に発見、介入に繋げることができています。

今年度の取り組みは、尾骨の褥瘡を減少させるために発生要因を分析し、要因に応じた教育をしました。その結果、尾骨部の褥瘡発生率は2022年度と比較し、減少はしませんでした。当院の尾骨部褥瘡の要因が明らかとなりましたので、次年度も教育を継続し、発生率の低下に繋がります。

また、褥瘡対策診療計画書の正確な入力ができるようマニュアル修正、周知に加えてRPAを活用した取り組みを始動しました。その結果、褥瘡対策診療計画書の入力不備は減少傾向となりました。

### ■ MDRPU 発生理由

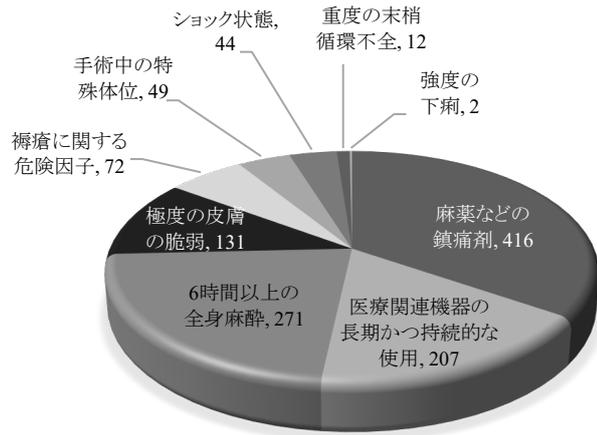


### ■ 褥瘡保有者数・ハイリスク数

①褥瘡リスクアセスメント実施数	2,025件
②褥瘡保有患者	406名
③②のうち院内発生の褥瘡を有する患者数	121名
④②のうち真皮を超える褥瘡(III度以上)を有する患者数	11名
⑤④のうち院内発生の患者数	11名
⑥褥瘡ハイリスクアセスメント数	783名
⑦ハイリスク患者特定数	519名
⑧院内ハイリスク患者の褥瘡発生数(院外)	9名
⑨院内ハイリスク患者の褥瘡発生数(院内)	22名
⑩ハイリスクラウンド件数	858名

※MDRPUを含む

■ 褥瘡のハイリスク項目別件数



ハイリスクでの褥瘡発生は褥瘡が18名、MDRPUが4名でした。クリティカル領域における発生が中心で、補助循環挿入患者、シヨック状態の患者の増加などが背景の一つであると考えられました。医療関連機器圧迫創傷の発生は8件で、NPPVや血管留置カテーテルなどで発生していました。

■ 創傷対策チームによる褥瘡・ハイリスク回診およびカンファレンス実施数

	2019	2020	2021	2022	2023
実施数	192	190	193	216	124

■ 創傷発生時のカンファレンス実施率

	2019	2020	2021	2022	2023
実施率	54%	79%	81%	78%	83%

2023年の創傷発生時のカンファレンス実施率は83%で、今後もテンプレートを活用し、カンファレンス内容を記録に残し、早期治療と予防ケアに繋げることができるように指導していきます。

## 5. 2024年度目標

- 深い褥瘡発生数の減少、褥瘡の治癒期間の短縮化  
褥瘡推定発生率と医療関連機器圧迫創傷(DRPU)推定発生率0.8%以下を維持します。
- 創傷ケアリンクスタッフの教育の強化  
創傷ケアリンクスタッフとしての基本的な創傷ケアの知識・技術を習得し、レベルアップを図り、自部署で指導ができる実践的な役割の中核となるリンクスタッフを育成します。

## 6. 学術関係

### (1) 学会発表および講演

- 和田理枝、武智由美子、中村順子. 多発性褥瘡に対し多職種連携によるアプローチが有効であった1症例. 第23回日本褥瘡学会中国四国地方学会学術集会. 鳥取 (2023.3.19)
- 三原尚子、赤穂こずえ、和田理枝. 当院創傷委員会による院内スキンケア用品の標準化に向けた取り組み. 第25回日本褥瘡学会学術集会. 神戸 (2023.9.1-2)